

【公式】大阪府立久米田高校太鼓部サイト

顧問と共に、先輩から後輩へと繋いできた太鼓部の歴史についてご紹介いたします。

TOP	出演予定	活動報告	成長物語	演奏依頼	ブログ
-----	------	------	------	------	-----

太鼓部の成長物語

[⇒成長年表はこちら](#)

久米田高校太鼓部は、2004年に生徒会有志を中心にチームを結成しました。

そのチームを中心にした、生徒の自主企画による三十周年行事を実現し、さらなる発展を期して太鼓同好会が発足しました。

「泉州に太鼓の音を響かそう」「みんなで一斉に叩こう」を合い言葉に、希望するすべての人が楽しめるクラブをしたいと、視聴覚教室で練習を始めました。運動制限のある人も、運動部以上の練習をしたい人も、すべてのメンバーが充実感を持てる練習をしよう、そして、全員で一つの音を追求することを楽しもうと。

その年、「大阪府 高校芸文祭」という太鼓チームのコンクールがあることを知り、まず見学に行くことにしました。どうせ行くならエントリーしようと、怖いもの知らずで演奏に参加しました。そして、その大会で、実力校の迫力ある演奏に驚き、魅入られました。

いったいどんな練習をしたら先輩校のような演奏ができるんだろう。想像すると気が遠くなるようでしたが、その大会に毎年参加することをそれからの目標と決めました。しかし、本校には、創設顧問をふくめ、太鼓を教えることができる指導者がおらず、レパートリーも2曲しかない状態でした（「秩父屋台囃子」、「ごんべえ太鼓」）。それなら、先輩校の練習を一から学ぼうと、芥川高校や河南高校を訪問し、練習風景、基礎打ちの仕方から見学させていただきました。

やがて。近隣の常盤健老大学や岸和田ドンチャカフェスティバルなどで演奏させてもらえるようになり、「地元の高校を育てよう」と熱心な応援をもらえるようになりました。2年後には太鼓部に昇格し、毎年、数名の新入生が入部するようになって、徐々にレパートリーも増えていきました。

2009年、自分たちで構成した「滄海aounabara」では芸文祭で4位入賞を果たし、自信をつけました。さらに、その年の台湾での演奏は初めての海外体験となりました（姉妹校提携のための表敬訪問）。

10年間、自分たちの目指すものを模索しながらも、活動が少しずつ認められるようになりました。その間に、岸和田市成人式、NHK「カーネーション最終回を見る会」での俳優さんたちとの共演、定期演奏会なども実現しました。しかし、部員不足の悩みは消えず、一時は部員がゼロ状態という危機に陥ったこともあります。その危機を乗り越え、34期～36期と音楽好きの部員が参加し、太鼓を通じて出会う喜びを再確認しました。

この困難を乗り越えたとき、自分たち太鼓部の目指す方向が明確に見えてきました。

それは、「手づくりのチーム」「みんなで一斉に演奏しよう」という初期のスタイルを堅持し、泉州人らしい陽気で人なつこく人情味あふれたチーム作りであり、明るく楽しい演奏で喜んでもらえることです。

私たちは、これまでも、演奏を通じた交流から色々なことを学ばせてもらいました。「人は、こんなにも楽しく踊れて、歌えるんだ」「いままで、こんなに笑顔になれること・怒ることを忘れていた」と感動していただいたとき、演奏している高校生の方が感動で身が震えます。

2014年、ある集いで「これからも地元の皆さまに笑顔と感動をお届けします」と部長が誓いました。そのために、私たちは、思いつく限りに高い目標を設定しました。それは、「泉州で一番楽しいステージ」、「泉州から世界へ私たちの夢を大きく膨らます」ことです。

高い目標の実現のためには様々な努力が必要です。太鼓や鳴り物、笛の練習、そのためのトレーニングや見よう見まねでの歌や踊りの練習などは当然ですが、舞台・演目の構成、手作りの太鼓台や衣装製作、バチ作り……。組織の運営、太鼓の運搬、資材の積み込み方から、浴衣の着付けや、カンナ掛け、柿渋塗りまで覚えます（柿渋塗りすら楽しみとして取り組んでいます）。

私たちは、チーム創設時から、素質ある部員を選抜するという方法はとっていません。

初心者が「叩いて気持ちよかった」快感を唯一の共通点として集まったチームです。全員のテンポの良い音と伸びやかな振りがぴったり合わせられるようになったときにチームの「総意」が表現できると考えています。

そして、この2年間ほどは部員数も増えてきました。しかし、予想以上に振りや音をあわせることが難しく、また新しい困難に直面しています。私たちは、この課題をみんなで克服して作品を完成をしたときに、一人ひとりが人間的に成長し、チームとしての個性が出てくると信じています。（「ピンチはチャンスだ！」顧問の口癖）

あっちこっちで頭をぶつけながらも、先輩たちの努力の積み重ねは実を結んできました。ようやく、2014年に15人、今年は17人と入部数が増えました。それは「新入生歓迎会」での「負けじ魂」の演奏に痺れて集まってきた生徒たちです。

いよいよ、多彩な顔ぶれとなり、表現の幅も広がりました。

「元気で愉快的な久米田の太鼓」をお楽しみください。